

## 1

## be 動詞・一般動詞

◆指導ページ P.2～5◆

## 【主な学習内容】

◎be 動詞を使った現在・過去の文, There is[are] ～. の文

◎一般動詞を使った現在・過去の文

学習内容	補足・留意事項など															
<p><b>① be 動詞の用法</b></p> <p>☆ <b>be 動詞の現在形</b>…am, are, is 「～である」, 「～にいる[ある]」  <b>過去形</b>…was, were 「～であった」, 「～にいた[あった]」</p> <p>(1) 否定文: 〈主語 + be 動詞 + not ～〉  Ken <b>is not</b> in Tokyo now. (健は今, 東京にいません。)</p> <p>(2) 疑問文: 〈be 動詞 + 主語 ～?〉  💡 Yes / No で答える。  <b>Are</b> you a doctor? (あなたは医者ですか。)  — Yes, I <b>am</b>. (肯定)  — No, I <b>am</b>[I'm] <b>not</b>. (否定)  疑問詞のある疑問文は, 〈疑問詞 + be 動詞 + 主語～?〉  💡 疑問詞のつく疑問文には Yes / No で答えることができない。</p> <p>(3) 〈There is[are] ～.〉で「…に～がある[いる]」の意味。  〈～〉が名詞の単数形の場合→ There is ～.  複数形の場合→ There are ～.  〈否定文〉 There is[are] not ～.  〈疑問文〉 Is[Are] there ～?  〈答え方〉 Yes, there is[are]. / No, there is[are] not.  💡 Here is[are] ～. = 「ここに～がある[いる]」。文の作り方は There is[are] ～. と同じ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>be 動詞の使い分け  be 動詞は主語や時制によって変化する。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="1373 570 1746 803"> <thead> <tr> <th>主語</th> <th>現在</th> <th>過去</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I</td> <td>am</td> <td>was</td> </tr> <tr> <td>you</td> <td>are</td> <td>were</td> </tr> <tr> <td>he, she, it</td> <td>is</td> <td>was</td> </tr> <tr> <td>we, you, they</td> <td>are</td> <td>were</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>be 動詞の短縮形  is not = isn't / are not = aren't  was not = wasn't  were not = weren't</li> <li>There is[are] ～. の書きかえ  There are seven days in a week.  = A week has seven days.  (1週間は7日です。)</li> </ul>	主語	現在	過去	I	am	was	you	are	were	he, she, it	is	was	we, you, they	are	were
主語	現在	過去														
I	am	was														
you	are	were														
he, she, it	is	was														
we, you, they	are	were														
<p><b>② 一般動詞の用法</b></p> <p>(1) 主語が3人称単数現在(3単現)のとき, 動詞の語尾に -(e)s をつける。  💡 s, o, ch, sh, x で終わる語→ es をつける。  〈子音字 + y〉で終わる語→ y を i に変えて es をつける。  💡 have の3単現は has。</p> <p>(2) 一般動詞の現在の否定文  〈主語 + don't[doesn't] + 動詞の原形 ～〉  💡 主語が3単現のとき doesn't にする。</p> <p>(3) 一般動詞の現在の疑問文  〈Do[Does] + 主語 + 動詞の原形 ～?〉  💡 主語が3単現のとき does にする。  答え方は, Yes, ～ do[does]. / No, ～ don't[doesn't].</p> <p>(4) 一般動詞の過去形  ・規則動詞→語尾に -(e)d をつける  ①ふつう→〈原形 + ed〉  ②語尾が e →〈原形 + d〉  ③語尾が〈子音字 + y〉→ y を i にして ed をつける。  ④語尾が〈短母音 + 子音字〉→子音字を重ねて ed をつける。  ・不規則動詞→不規則に変化。</p> <p>(5) 一般動詞の過去の否定文  〈主語 + did not[didn't] + 動詞の原形 ～〉</p> <p>(6) 一般動詞の過去の疑問文  〈Did + 主語 + 動詞の原形 ～?〉  答え方は, Yes, ～ did. / No, ～ didn't.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般動詞の否定文・疑問文  主語が3人称単数のとき, do が does に変化する。</li> <li>疑問詞や or のない疑問文の場合は, 答えは Yes / No で答える。</li> <li>疑問詞が主語の文  Who cleaned the room?  (だれが部屋をそうじしたのですか。)  — Taro did. (太郎です。)</li> <li>進行形の文  「～している[していた]」と動作が進行中であることを表す。  〈be 動詞 + ～ing〉で表す。  [現在進行形]  He <u>is</u> playing soccer.  [過去進行形]  He <u>was</u> playing soccer.</li> </ul>															

【主な学習内容】

- ◎未来を表す助動詞 will と be going to ～の文。
- ◎助動詞 can・may・must などの用法(基本文・疑問文・否定文)と表現

学習内容	補足・留意事項など
<p><b>① 未来の文</b></p> <p>☆「～するつもりだ」「～だろう」と未来を表す文は、〈will+動詞の原形〉か〈be going to+動詞の原形〉を用いる。</p> <p>(1) 〈will+動詞の原形〉                  Ken <b>will</b> go to America next year. (健は来年アメリカに行くでしょう。)                  否定文→〈will not[won't]+動詞の原形～〉                  疑問文→〈Will+主語+動詞の原形～?〉                  答え方: Yes, ~ will. / No, ~ will not[won't].   💡短縮形 will not = won't</p> <p>(2) 〈be going to+動詞の原形〉                  I <b>am going to</b> study math this evening. (私は今晚数学を勉強するつもりです。)                  否定文→〈be 動詞+not going to+動詞の原形～〉                  疑問文→〈be 動詞+主語+going to+動詞の原形～?〉                  💡疑問詞がある場合は、〈疑問詞+be 動詞+主語+going to+動詞の原形～?〉</p> <p>(3) <b>Will you ~?</b>                  「～していただけますか」(依頼), 「～しませんか」(勧誘)の意味もある。</p> <p><b>② 助動詞の用法</b></p> <p>☆助動詞は主語によって形はかわらない。あとには動詞の原形がくる。</p> <p>(1) <b>can</b> 「～できる」  <b>may</b> 「～してもよい」「～かもしれない」  <b>must</b> 「～しなければならない」「～にちがいない」  <b>should</b> 「～するべきである」(💡 must より意味が弱い)</p> <p>(2) 助動詞の否定文                  助動詞のあとに not をおく。〈助動詞+not+動詞の原形〉  <b>can't, cannot</b> 「～できない」  <b>must not[mustn't]</b> 「～してはいけない」  <b>should not[shouldn't]</b> 「～すべきではない」</p> <p>(3) 助動詞の疑問文                  〈助動詞+主語+動詞の原形～?〉  <b>May[Can] I ~?</b> 「(私が)～してもいいですか」(許可を請う)  <b>Shall I ~?</b> 「(私が)～しましょうか」(申し出)  <b>Shall we ~?</b> 「(いっしょに)～しませんか」(勧誘)</p> <p>(4) <b>be able to ~</b> 「～できる」= can  <b>was[were] able to ~</b> 「～できた」= could  <b>have[has] to ~</b> 「～しなければならない」= must  <b>had to ~</b> 「～しなければならないかった」  <b>don't[doesn't] have to ~</b> 「～しなくてもよい」= need not ~  <b>would like to ~</b> 「～したい(ものだ)」(want to ~よりていねいな言い方)  <b>had better ~</b> 「～したほうがよい」(やや命令的)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1つの助動詞でも意味が複数あるため文脈をよく読み取ること。</li> <li>• Will you ~? は会話でよく用いられる。(Shall I ~? や Shall we ~? も同様)</li> <li>• 疑問文への答え方の例                      Will you ~? (依頼)                      — Sure. / All right.                      — I'm sorry I can't.                      Will you ~? (勧誘)                      — Yes, I will. / Sure.                      — No, thank you.                      May[Can] I ~?                      — Sure. / Certainly.                      — No, you may not.                      Must ~?                      — Yes, ~ must.                      — No, ~ don't[doesn't] have to.                      Shall I ~?                      — Yes, please. / Yes, thank you.                      — No, thank you.                      Shall we ~?                      — Yes, let's. / All right.                      — No, let's not.</li> <li>• must と have to                      肯定文では両方とも「～しなければならない」である。否定文では must not ~ 「～してはいけない」 don't have to ~ 「しなくてもよい」となり、意味が異なることに注意する。</li> <li>• can, must の未来                      助動詞を2つ並べて使うことはできないので、未来を表す文にするには                      can → will be able to ~                      must → will have to ~                      の形にする。</li> </ul>

## 3

## 命令文・疑問詞を使った文

◆指導ページ P.10～13◆

## 【主な学習内容】

- ◎命令文の作り方と言いかえ
- ◎疑問詞で始まる疑問文とその答え方

学習内容	補足・留意事項など
<p><b>1 命令文</b></p> <p>☆命令文「～しなさい」は、動詞の原形で始める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Please がつくるとていねいな命令文になる。</li> <li><b>Please</b> open the door. = Open the door, <b>please</b>. (ドアを開けてください。) コンマを入れる</li> <li>・ be 動詞の命令文は、Be ～. の形。</li> <li><b>Be</b> quiet. (静かにしなさい。)</li> <li>(1) 否定の命令文「～してはいけない」は、〈Don't + 動詞の原形 ～〉</li> <li><b>Don't be</b> noisy. (騒いではいけません。) ⚡ be 動詞でも Don't から始める。</li> <li>(2) 「～しましょう」は、〈Let's + 動詞の原形 ～〉</li> <li>答え方は、Yes, let's. / No, let's not. など。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 命令文の言いかえ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 命令文 = You must ～.</li> <li>・ Don't ～. = You must not ～.</li> <li>・ Please ～. = Will you ～?</li> <li>・ Let's ～. = Shall we ～?</li> </ul> </li> <li>• 命令文, and ～ 「…しなさい, そうすれば～」</li> <li>• 命令文, or ～ 「…しなさい, さもないと～」</li> </ul>
<p><b>2 疑問詞で始まる疑問文</b></p> <p>(1) 疑問代名詞(主語・補語・目的語)</p> <p>what 「何」, who 「だれ」, which 「どれ」, whose 「だれのもの」</p> <p><b>Whose</b> is this? (これはだれのものですか。)</p> <p>— It's Tom's. (トムのものです。)</p> <p>(2) 疑問副詞</p> <p>when 「いつ」, where 「どこで」, why 「なぜ」, how 「どのようにして」</p> <p><b>Why</b> were you absent? (なぜあなたは欠席したのですか。)</p> <p>— <b>Because</b> I was sick. (病気だったからです。)</p> <p>(3) 疑問形容詞</p> <p>〈what + 名詞〉「何の～」, 〈which + 名詞〉「どの～」, 〈whose + 名詞〉「だれの～」</p> <p><b>Whose</b> book is this? (これはだれの本ですか。)</p> <p>— It's mine. (私のものです。)</p> <p>(4) 主語になる疑問詞の文は、〈疑問詞 + 動詞 ～?〉</p> <p><b>Who</b> used my bike? (だれが私の自転車を使ったのですか。)</p> <p>— Tom did. (トムです。)</p> <p>(5) 「どれくらい～」とたずねる疑問文は、〈How + 形容詞[副詞] ～?〉</p> <p>How old ～? (年齢・古さ)</p> <p>How many ～? (個数)</p> <p>How tall ～? (身長・ものの高さ)</p> <p>How much ～? (値段や量・程度)</p> <p>How long ～? (時間やものの長さ)</p> <p>How often ～? (回数)</p> <p>How far ～? (距離)</p> <p>How high ～? (高さ)</p> <p><b>例</b> <b>How old</b> are you? (あなたは何歳ですか。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 疑問詞を用いる疑問文 <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 文尾は下げ調子で読む。</li> <li>→ Yes / No で答えることはできない。</li> </ul> </li> <li>• 疑問詞は3人称単数扱い。</li> <li>疑問詞が主語のときは、3人称単数として扱う。語順は平叙文と同じ。</li> <li>Who <u>is</u> in the room? — Tom and Jim are.</li> <li>⚡ 答えが複数であっても、is を用いてたずねる。</li> <li>• 日付・曜日・時刻のたずね方</li> <li>What's the date today? = What day of the month is it today? (きょうは何日ですか。)</li> <li>What day is it today? (きょうは何曜日ですか。)</li> <li>What time is it now? (今、何時ですか。)</li> <li>⚡ 時間を表す文にはよく it が用いられるが、これは日本語に直訳することはない。</li> </ul>

## 4

## 名詞・冠詞・代名詞

◆指導ページ P.14～17◆

## 【主な学習内容】

◎名詞の分類, 冠詞 a, the の用法

◎代名詞の分類・用法

学習内容	補足・留意事項など												
<p><b>① 名詞の用法</b></p> <p>(1) 数えられる名詞と数えられない名詞がある。</p> <table border="1" data-bbox="202 543 1126 751"> <tr> <td rowspan="2">数えられる名詞 a[an]がつき, 複数形がある</td> <td>普通名詞</td> <td>boy「少年」, book「本」</td> </tr> <tr> <td>集合名詞</td> <td>family「家族」, class「組」</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">数えられない名詞 a[an]がつかず, 常に単数扱い</td> <td>物質名詞</td> <td>water「水」, tea「紅茶」</td> </tr> <tr> <td>固有名詞</td> <td>Ken「健」, Tokyo「東京」</td> </tr> <tr> <td>抽象名詞</td> <td>music「音楽」, love「愛」</td> </tr> </table> <p>(2) 名詞の複数形は -(e)s をつける規則変化と不規則変化がある。</p> <p><b>② 冠詞の用法</b></p> <p>(1) a 数えられる名詞につく。発音が母音で始まる語の前では an になる。</p> <p>(2) the 名詞の単複両方につく。前に1度出た名詞を指すとき, 何を指すかわかる名詞や, 天体, 方位, 序数, 最上級などにつく。</p> <p><b>③ 代名詞の用法</b></p> <p>(1) 人称代名詞 人称・数・性・格(主格・所有格・目的格)により変化。</p> <p>(2) 所有代名詞「～のもの」 mine, his 以外は所有格に s がついた形で表す。所有代名詞のあとには名詞がこない。 ⚡ 固有名詞の場合は, ' (アポストロフィー) を s の前につける。 Mary's「メアリーのもの」</p> <p>(3) 再帰代名詞「自分で」, 「自分自身を」 1人称と2人称→所有格+self(複数の場合は selves) で表す。 3人称 →目的格+self(複数の場合は selves) で表す。</p> <p>(4) 指示代名詞 this「これ」, these「これら」, that「あれ」, those「あれら」</p> <p>(5) 不定代名詞 one…前に出てきた名詞をくり返すかわりに使う。 My bag is small. I want a big <b>one</b>. (私のかばんは小さいです。大きいのがほしいです。) some はふつう肯定文, any は疑問文・否定文に用いる。 ⚡ 主な不定代名詞 単数扱い: one, another, other, each, ~thing, ~body 複数扱い: others, both 単複両方: all, some, any</p> <p>(6) it の特別用法 天候・寒暖・明暗・時刻・日付・曜日などを表す文では it を主語にし, 「それは」と訳さない。</p>	数えられる名詞 a[an]がつき, 複数形がある	普通名詞	boy「少年」, book「本」	集合名詞	family「家族」, class「組」	数えられない名詞 a[an]がつかず, 常に単数扱い	物質名詞	water「水」, tea「紅茶」	固有名詞	Ken「健」, Tokyo「東京」	抽象名詞	music「音楽」, love「愛」	<ul style="list-style-type: none"> <li>不規則変化の複数形 man「男性」→men woman「女性」 →women[wimɪn] ⚡発音に注意 child「子ども」→children foot「足」→feet</li> <li>単複同形の名詞 fish「魚」, deer「シカ」</li> <li>数えられない名詞の量の表し方 ・a cup of ~「カップ1杯の～」 tea, coffee など ・a glass of ~「コップ1杯の～」 water, milk など ・a piece of ~「1枚(1きれ)の～」 paper, bread など ・a sheet of ~「1枚の～」 paper など。 ⚡量が増えた場合は, 容器や単位を表す語を複数形にする。 two <u>pieces</u> of bread 「食パン2枚」</li> <li>不定冠詞 a[an] 「ある～」 「1つの～」 「～というもの」, 「～につき」の意味をもつ。</li> <li>定冠詞 the あとに続く語の始まりが子音か母音によって発音が変わる。 (子音の前:[ðə], 母音の前:[ði])</li> <li>冠詞が省略される表現 go to school「学校へ行く」 go to bed「寝る」 play tennis「テニスをする」 by bus「バスで」 at home「家で」</li> <li>再帰代名詞を用いた表現 say to ~self「心で思う」 by ~self「1人で」 enjoy ~self「楽しむ」</li> </ul>
数えられる名詞 a[an]がつき, 複数形がある		普通名詞	boy「少年」, book「本」										
	集合名詞	family「家族」, class「組」											
数えられない名詞 a[an]がつかず, 常に単数扱い	物質名詞	water「水」, tea「紅茶」											
	固有名詞	Ken「健」, Tokyo「東京」											
	抽象名詞	music「音楽」, love「愛」											

## 5

## 比較

◆指導ページ P.18～21◆

## 【主な学習内容】

◎as ~ as ... の文の用法

◎比較級, 最上級を用いた文の用法

学習内容	補足・留意事項など
<p>① as ~ as ... の文</p> <p>☆「…と同じくらい～」→〈as+原級(形容詞・副詞)+as ...〉  Ken is <b>as</b> tall <b>as</b> Jiro. (健は次郎と同じくらいの背だけです。)</p> <p>💡否定文の〈not as+原級(形容詞・副詞)+as ...〉は、「…ほど～ではない」の意味。  I can't run <b>as</b> fast <b>as</b> Mike. (私はマイクほど速く走れません。)</p> <p>💡〈一 times as+原級+as ...〉は、「…の一倍～」の意味。  Your room is <b>three times as</b> large <b>as</b> mine. (あなたの部屋は私の部屋の3倍の大きさです。)</p> <p>💡2倍のときは、〈twice as+原級+as ...〉で表す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>as ~ as を用いた慣用表現  as ~ as one can = as ~ as possible  「できるだけ～」  He ran <b>as</b> fast <b>as</b> he could.  (彼はできるだけ早く走った。)</li> </ul>
<p>② 比較級の文</p> <p>☆2つのものを比べて、「…より～」→〈比較級(-er)+than ...〉  Tom can run <b>faster than</b> Roy. (トムはロイより速く走ります。)</p> <p>(1) つづりの長い語(例 beautiful, popular)は more をつけて比較級にする。  This is <b>more beautiful than</b> that. (これはあれよりも美しい。)</p> <p>(2) 〈like ~ better than ...〉で、「…より～のほうが好きだ」の意味。</p> <p>(3) 「A と B ではどちらのほうが～か」とたずねるときは、〈Which[Who]+動詞+比較級, A or B?〉で表す。答え方のときは、〈A[B] is.〉のように表す。  Who is taller, Ken or Jiro? (健と次郎ではどちらのほうが背が高いですか。)  — Ken is. (健です。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ずっと～」の言い方  much は比較級を強める。  He is <b>much</b> taller than Tom.  (彼はトムよりずっと背が高い。)</li> <li>〈比較級+than any other+名詞の単数形〉  最上級の内容を表す。  He is taller than any other boy in the class.  (彼はクラスの中でほかのどの少年よりも背が高い。)</li> </ul>
<p>③ 最上級の文</p> <p>☆3つ以上のものを比べて「…のうちでいちばん～」→〈the+最上級(-est)+in[of] ...〉  Makoto is <b>the tallest</b> in his class. (誠はクラスでいちばん背が高い。)</p> <p>(1) つづりの長い語は most をつけて最上級にする。  most difficult 「最も難しい」, most beautiful 「最も美しい」</p> <p>(2) 〈like ~ the best〉で、「～がいちばん好きだ」  I <b>like</b> soccer <b>the best</b> of all sports.  (私はすべてのスポーツの中でサッカーがいちばん好きです。)</p> <p>(3) 「どれ[だれ]がいちばん～か」とたずねるときは、〈Which[Who]+動詞+最上級～?〉  Which[who]は3人称単数扱い。  <b>Which</b> is <b>the biggest</b> of the three? (3つの中でどれがいちばん大きいですか。)  <b>Who</b> gets up <b>(the) earliest</b> in your family? (あなたの家族でだれがいちばん早く起きますか。)  —I do. (私です。)</p> <p>💡副詞には the をつけないこともある。</p> <p>(4) 〈one of the+最上級+名詞の複数形〉で、「最も～な…の1つ」の意味。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不規則な変化をする形容詞・副詞  原級 比較級 最上級  good — better — best  well — better — best  bad — worse — worst  little — less — least  many — more — most  much — more — most</li> <li>of, in の使い方  〈in+範囲・場所〉  in the class 「クラスで」  in this town 「この町で」  in Japan 「日本で」  in the world 「世界で」  〈of+複数〉  of us all 「私たちみんなの中で」  of the three 「3つ[3人]の中で」</li> </ul>

## 6

## 不定詞(1)・動名詞(1)

◆指導ページ P.22 ~ 25 ◆

## 【主な学習内容】

◎不定詞の名詞的用法, 副詞的用法, 形容詞的用法

◎動名詞の用法

学習内容	補足・留意事項など
<p><b>① 不定詞の用法</b></p> <p>☆不定詞は〈to+動詞の原形〉の形で表す。名詞的用法・副詞的用法・形容詞的用法がある。</p> <p>(1) 名詞的用法…「～すること」            目的語・主語・補語として用いられ, 名詞のような働きをする。            〈目的語〉 I like <u>to swim</u>. (私は泳ぐことが好きです。)            〈主 語〉 <u>To swim</u> is fun for me. (泳ぐことは私にとって楽しい。)            〈補 語〉 My dream is <u>to go to Africa</u>. (私の夢はアフリカに行くことです。)</p> <p>(2) 副詞的用法…「～のために」, 「～して」            目的, 原因などを表し, 副詞のような働きをする。            〈目的〉 I went to the park <u>to take pictures</u>. (私は写真を撮るために公園に行きました。)            〈原因〉 I was surprised <u>to hear the news</u>. (私はその知らせを聞いて驚きました。)</p> <p>(3) 形容詞的用法…「～するための」, 「～すべき」            名詞や代名詞を後ろから修飾し, 形容詞のような働きをする。            Please give me <u>something to eat</u>. (何か食べるものを私にください。)              I have <u>a lot of work to do</u>. (私はするべきたくさん仕事がある。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不定詞が表す主語の部分が多い場合には, It is ... to ~. の形で表す。 It is fun to learn English. (英語を学ぶことは楽しい。)</li> <li>Why に対する答え方 副詞的用法の不定詞で答えることができる。 Why did you go to England? (どうしてイギリスに行ったのですか。) — To study English. (英語を勉強するためです。)</li> <li>-thing + 形容詞 + 不定詞 形容詞的用法の不定詞を用いる。 something cold to drink 「冷たい飲みもの」</li> </ul>
<p><b>② 動名詞の用法</b></p> <p>☆動名詞は〈動詞の原形+ing〉の形で表す。「～すること」の意味をもつ。  <b>主語・目的語・補語・前置詞の目的語になる。</b></p> <p>〈主 語〉 <u>Swimming</u> is fun for me. (泳ぐことは私にとって楽しい。)            = To swim is fun for me. (不定詞の名詞的用法)            〈目的語〉 I like <u>swimming</u>. (私は泳ぐことが好きです。)            = I like to swim. (不定詞の名詞的用法)            〈補 語〉 His job is <u>driving a bus</u>. (彼の仕事はバスを運転することです。)            = His job is to drive a bus. (不定詞の名詞的用法)            〈前置詞+動名詞〉            Taro is good at <u>swimming</u>. (太郎は水泳が得意です。)</p> <p>◇進行形と動名詞の区別</p> <p>My hobby is <u>playing tennis</u>. (動名詞)            テニスをする事</p> <p>I <u>am playing tennis</u>. (進行形)            テニスをしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不定詞と動名詞 (目的語にどちらをとるか) 動名詞の文を不定詞の文に書きかえることは可能だが, 動詞によって一方しか使えないものや意味がかわるものがあるので注意する。</li> <li>①動名詞のみ enjoy 「楽しむ」, stop 「やめる」, finish 「終える」</li> <li>②不定詞のみ want 「ほしい」, hope 「望む」</li> <li>③両方とる like 「好む」, begin 「始める」, start 「始める」</li> <li>④動名詞と不定詞で意味がかわるもの</li> </ul>
	<p>[ stop ~ing 「～するのをやめる」 stop to ~ 「～するために立ち止まる」</p> <p>[ forget ~ing 「～したのを忘れる」 (~ing は過去の出来事) forget to ~ 「～するのを忘れる」 (to~ は未来のこと, これからすること)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>不定詞は前置詞の目的語になれないため, 動名詞と前置詞が結びついて形容詞句や副詞句となる。 He went out without taking his umbrella. (彼は傘をもたずに出かけた。)</li> </ul>

## 【主な学習内容】

◎接続詞(等位接続詞と従属接続詞)を用いた文の用法, 接続詞 that の用法と時制の一致

◎接続詞の働きをする連語

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 接続詞 and, or, but, so</p> <p>☆等位接続詞 and 「～と…」 「そして」, or 「～か, それとも」, but 「しかし」 「だが」 so 「だから」 「それで」</p> <p>・〈命令文, and ～〉 「…しなさい, そうすれば～」 Hurry up, and you'll be in time. (急ぎなさい, そうすれば間にありますよ。)</p> <p>・〈命令文, or ～〉 「…しなさい, さもないと～」 Hurry up, or you'll be late for school. (急ぎなさい, さもないと学校に遅刻しますよ。)</p> <p>・〈not ～ but …〉 「～ではなく…」</p> <p>② 接続詞 that と時制の一致</p> <p>☆〈that+主語+動詞～〉で「～ということ」の意味。</p> <p>・that は省略されることもある。</p> <p>・主節の動詞が過去形になると, 従属節の動詞も過去形になる(時制の一致)。 I know that he <u>is</u> sick. (私は彼が病気であることを知っている。) I <u>knew</u> that he <u>was</u> sick. (私は彼が病気であることを<u>知っていた</u>。)</p> <p>💡主節の動詞 knew が過去形であるから, 従属節の動詞を was にする。</p>	<p>●等位接続詞 語と語, 句と句, 文と文を対等に結ぶ接続詞。and, or, but など。</p> <p>●従属接続詞 2つの文を主と従の関係で結ぶ。 when, if, though など。</p> <p>●that をとる動詞 think that ～ 「～と思う」 believe that ～ 「～を信じる」 say that ～ 「～と言う」 know that ～ 「～ということを知っている」 hope that ～ 「～と願う」</p>
<p>③ 時や条件・理由を表す接続詞</p> <p>(1) 従属接続詞 when 「～のとき」, before 「～する前に」, since 「～してから, ～以来」, till [until] 「～まで」, while 「～する間」</p> <p>When I came home, she was sleeping. 💡時を表す副詞節が前にくるときは, コンマが必要。 従属(副詞節) コンマ 主節</p> <p>= She was sleeping when I came home. (コンマは不要) (私が家に帰ったとき, 彼女は眠っていました。)</p> <p>(2) if 「もし～ならば」(条件), because 「～だから」(理由), though 「～だけれども」(譲歩)</p> <p>💡if・when・beforeなどに導かれる節の動詞は未来のことでも現在形で表す。 I won't go out if it <u>rains</u> tomorrow. (もしあす雨ならば出かけません。)</p>	<p>●前置詞としても使われる語 before, after, since, till など</p> <p>●〈命令文, and[or] ～〉の書きかえ ・命令文, and ～。 = If you ..., you will ～。 ・命令文, or ～。 = If you don't ..., you will ～。</p>
<p>④ 接続詞の働きをする連語</p> <p>☆ both A and B 「A も B も両方とも」 not only A but (also) B 「A だけでなく B も」 either A or B 「A か B のどちらか」 neither A nor B 「A も B も～ない」 as ～ as ... can 「できるだけ～」 so ～ that ... 「とても～なので…」 as soon as ～ 「～するとすぐに」</p> <p>💡〈not only A but (also) B〉, 〈either A or B〉, 〈neither A nor B〉が主語のときは, 動詞は B にあわせる。 Not only he but also I <u>am</u> tired. (彼だけでなく私も疲れています。) Iにあわせる</p>	<p>●so ... that — can't = too ... to ～ 「あまりにも…なので～できない」 I'm so busy that I can't go there. = I'm too busy to go there. (私はあまりにも忙しくてそこに行くことができません。)</p>

## 【主な学習内容】

- ◎各文型の構造を理解する。
- ◎他の文型との構造の違いを理解する。

学習内容	補足・留意事項など
<p>① SV・SVC・SVO の文</p> <p>☆ SV の文「…は～する」  SVC の文「…は～である[～になる]」  SVO の文「…は～を～する」</p> <p>(1) SVC の文の動詞  補語をとる動詞：be 動詞, become 「～になる」, look 「～に見える」, get 「～になる」  など。</p> <p>(2) SVC の文と SVO の文の区別  SVC の文→S=C の関係 She looks young. 〈She = young〉 (彼女は若く見える。)  SVO の文→S ≠ O の関係 She made lunch. 〈She ≠ lunch〉 (彼女は昼食を作りました。)</p> <p>② SVOO の文</p> <p>☆ SVOO の文「…は(人)に(もの)を～する」</p> <p>Father gave me a watch. (父は私に時計をくれました。)  S V O(人) O(もの)</p> <p>(1) SVOO の文を作る動詞：give 「与える」, show 「見せる」, tell 「話す」, buy 「買う」,  make 「作る」, teach 「教える」など。</p> <p>(2) SVOO の文は, SVO の文(SVO + to[for] ～.)に書きかえることができる。  Tom gave me this book. (トムは私にこの本をくれました。)  = Tom gave this book to me.  Mother made us a cake. (母は私たちにケーキを作ってくれました。)  = Mother made a cake for us.</p> <p>③ SVOC の文</p> <p>☆ SVOC の文「…は～を～と呼ぶ[にする]」</p> <p>(1) We call him Ken. (私たちは彼を健と呼びます。)  S V O C  SVOC の文を作る動詞：call 「～と呼ぶ」, name 「～と名づける」, make 「～にする」,  find 「～とわかる」など。</p> <p>(2) SVOO と SVOC の文の区別  SVOO の文→O ≠ O の関係  SVOC の文→O = C の関係  Father gave me a book. 〈me ≠ book〉  We call him Ken. 〈him = Ken〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• S = 主語, V = 動詞, C = 補語, O = 目的語</li> <li>●補語 主語の状態や様子などを述べている語。</li> <li>●目的語 動詞の対象を表す語。</li> <li>• 修飾語(句) 時や場所を表す副詞(句)は SVOC ではなく修飾語(句)。</li> <li>• look の区別 look at ～ 「～を見る」 look + 形容詞 「～に見える」 look like + 名詞 「～のようだ」</li> <li>• SVOO の文から SVO の文に書きかえるときの to と for の区別 <ul style="list-style-type: none"> <li>① to を使う give, show, tell, teach, send, write, lend</li> <li>② for を使う make, buy, find</li> </ul> </li> <li>• O が it のときは SVOO の文にならない。  ○ I gave it to him.  × I gave him it.</li> <li>• make が作る文構造 <ul style="list-style-type: none"> <li>① SVO の文 He made a box. (彼は箱を作った。)</li> <li>② SVOO の文 He made her a box. (彼は彼女に箱を作った。)</li> <li>③ SVOC の文 He made her a teacher. (彼は彼女を先生にした。)</li> </ul> </li> </ul>



## 【主な学習内容】

◎受動態の基本文型の学習

◎SVOO および SVOC の受動態や by 以外の前置詞を用いる受動態の表現。

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 受動態の文</p> <p>☆受動態「…に～される」→〈be 動詞+過去分詞+by …〉  ☆受動態の否定文→〈主語+be 動詞+not+過去分詞+by …〉  受動態の疑問文→〈be 動詞+主語+過去分詞+by …?〉</p> <p>(1) 能動態から受動態への書きかえ</p> <p>①目的語を受動態の主語にする。  ②動詞を〈be 動詞+過去分詞〉の形にし、時制を能動態にあわせる。  ③能動態の主語を by ～とする。代名詞なら目的格にする。  ④動作を行う人を言う必要がなかったり、はっきりしない場合は by～は省略される。  〈能動態〉 Tomoko made this box. (友子はこの箱を作りました。)  〈受動態〉 This box <b>was made by</b> Tomoko. (この箱は友子によって作られました。)</p> <p>(2) 連語の動詞の受動態は、動詞を過去分詞にして、そのあとにほかの語句を続けてから、by ～をおく。  〈能動態〉 Taro takes care of this dog. (太郎はこのイヌを世話しています。)  〈受動態〉 This dog <b>is taken care of</b> by Taro. (このイヌは太郎に世話されています。)</p> <p>② SVOO・SVOC の文の受動態</p> <p>☆ SVOO の文→目的語(人)・目的語(もの)をそれぞれ主語にして2通りの受動態ができる。  SVOC の文→目的語を主語にした受動態ができる。</p> <p>(1) SVOO の文の受動態</p> <p>His uncle gave him a book.  S V O(人) O(もの)</p> <p>He was given a book by his uncle.  (彼は彼のおじさんに1冊の本をもらいました。)  A book <b>was given</b> (to) him by his uncle.  (1冊の本が彼のおじさんから彼に与えられました。)</p> <p>(2) SVOC の文の受動態</p> <p>We call him Ken. (私たちは彼を健と呼びます。)  S V O C</p> <p>He <b>is called</b> Ken (by us). (彼は(私たちに)健と呼ばれます。)</p>	<p>• 過去の受動態の文  〈was[were]+過去分詞〉</p> <p>• by ～が省略されている受動態を能動態に書きかえるときは、they, we, you, peopleなどを主語に補う。  Books are sold at that store.  (あの店では本を売っています。)  → They sell books at that store.</p> <p>• SVOC の文の補語  この文で補語となるものは、名詞・代名詞・形容詞であるが、これらを主語にして受動態を作ることはできない。</p> <p>• be made of ～「～できている」  (製品の材料がわかるとき)</p> <p>• be made from ～「～できている」  (製品の原料がわからないとき)</p> <p>• 助動詞を含む文の受動態  〈助動詞+be+過去分詞〉  We can see stars at night.  → Stars can be seen at night.  (星は夜見えます。)</p>
<p>③ by 以外の前置詞を使う受動態</p> <p>☆〈be 動詞+過去分詞〉のあとに by 以外の前置詞を用いる表現がある。</p> <p>be interested in ～「～に興味がある」      be known to ～「～に知られている」  be covered with ～「～におおわれている」      be surprised at ～「～に驚く」  be pleased with ～「～が気に入る」      be filled with ～「～でいっぱいである」</p>	

## 【主な学習内容】

◎現在完了の基本文型の学習

◎継続を表す現在完了の学習

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 現在完了の形と意味</p> <p>☆〈have [has] + 過去分詞〉の形で、「継続・経験・完了・結果」の用法がある。</p> <p>(1) 現在完了は、過去のある時に始まった動作や状態を現在と関連づけていう言い方である。</p> <p>(2) 現在完了の形は〈have + 過去分詞〉で、主語が3人称単数のときは、〈has + 過去分詞〉。</p> <p>I <b>have been</b> here since this morning. (私は今朝からずっとここにいます。)</p> <p>She <b>has been</b> here since this morning. (彼女は今朝からずっとここにいます。)</p> <p>② 継続を表す現在完了</p> <p>☆「ずっと～だ[～している]」の意味</p> <p>(1) 過去のある時に始まった動作や状態が継続していることを表す</p> <p>I <b>have been</b> here. (私はずっとここにいます。)</p> <p style="padding-left: 2em;">= 過去ここにいた + 現在もここにいる</p> <p>(2) 〈for + 期間〉で「～の間」、〈since + 起点〉で「～以来」がよく用いられる。</p> <p>I <b>have known</b> him <u>for five years</u>. (私は5年前から彼を知っています。)</p> <p>He <b>has been</b> here <u>since this morning</u>. (彼は今朝からずっとここにいます。)</p> <p>💡since のあとには、主語 + 動詞のある文が続くこともある。</p> <p>I have been here <u>since I was ten years old</u>. (私は10歳のときからずっとここにいます。)</p> <p>(3) 現在完了の否定文</p> <p>〈have [has] not + 過去分詞〉の形で、「ずっと～していない」、「ずっと～でない」の意味。</p> <p>He <b>hasn't been</b> here <b>since</b> this morning. (彼は今朝からずっとここにいません。)</p> <p>(4) 現在完了の疑問文</p> <p>〈Have [Has] + 主語 + 過去分詞～?〉で、「ずっと～ですか」の意味。</p> <p>Yes, ～ have [has]. / No, ～ haven't [hasn't]. で答える。</p> <p><b>Has</b> Kumi <b>been</b> in Nara <b>for</b> two years? (久美は2年間奈良にいますか。)</p> <p>— Yes, she <b>has</b>. (はい、います。)</p> <p>— No, she <b>hasn't</b>. (いいえ、いません。)</p> <p>(5) 継続の期間をたずねる。〈How long ～?〉で表す。</p> <p><b>How long have</b> you <b>stayed</b> here? (あなたはどのくらいここに滞在しているのですか。)</p> <p>— (I have stayed here) For a month. (1か月です。)</p> <p>— (I have stayed here) Since last month. (先月からです。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• have, has の短縮形</li> <li>I have = I've</li> <li>You have = You've</li> <li>They have = They've</li> <li>We have = We've</li> <li>He has = He's</li> <li>She has = She's</li> <li>have not = haven't</li> <li>has not = hasn't</li> <li>💡 He's = He is, She's = She is の場合もあるので注意。</li> <li>• 「～から」は since</li> <li style="padding-left: 2em;">× from yesterday</li> <li style="padding-left: 2em;">○ since yesterday</li> <li>• 単独では使えない語</li> <li style="padding-left: 2em;">yesterday, last year など過去の時を表す語は単独では現在完了の文には使えない。</li> <li>• 過去と現在完了のちがい</li> <li style="padding-left: 2em;">〈過去〉</li> <li style="padding-left: 2em;">He lived here last year.</li> <li style="padding-left: 4em;">(彼は昨年ここに住んでいた。)</li> <li style="padding-left: 2em;">過去の文では、昨年ここに住んでいたことはわかるが、現在はどこにいるか不明。</li> <li style="padding-left: 2em;">〈現在完了〉</li> <li style="padding-left: 2em;">He has lived here since last year.</li> <li style="padding-left: 4em;">(彼は昨年からここに住んでいる。)</li> <li style="padding-left: 2em;">現在完了の文では、彼が昨年ここに住んでいて、現在も住んでいることがわかる。</li> </ul>

## 【主な学習内容】

◎経験を表す現在完了の基本文・否定文・疑問文とよく使われる副詞

◎完了・結果を表す現在完了の基本文・否定文・疑問文とよく使われる副詞

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 経験を表す現在完了</p> <p>☆「(今までに)～したことがある」の意味。</p> <p>(1) 現在までの経験を表すのに用いる。 I <b>have visited</b> Nara before. (私は以前奈良を訪ねたことがあります。)</p> <p>(2) よく使われる副詞(句) before「以前に」, once「1度」, twice「2度」, ~ times「～回」, often「たびたび」, sometimes「ときどき」, many times「何度も」</p> <p>(3) 「～へ行ったことがある」は〈have[has] been to ～〉で表す。 I've <b>been to</b> Osaka three times. (私は大阪に3回行ったことがあります。)</p> <p>⚡ have been to[in]と have gone to ～ ・ have been to ～:「～に行ったことがある」(経験), 「～に行ってきたところだ」(完了) ・ have been in ～:「～に行ったことがある」(経験), 「～にずっといる」(継続) ・ have gone to ～:「～へ行ってしまった(今ここにはいない)」(結果)</p> <p>(4) 否定文 never「1度も～ない」を使うことが多い。〈have[has] never + 過去分詞〉の形。 I <b>have never been</b> to Hokkaido. (私は北海道へ1度も行ったことはありません。)</p> <p>(5) 疑問文 ever「今までに」が使われることが多い。 <b>Have you ever seen</b> the picture? (あなたは今までにその絵を見たことがありますか。)</p> <p>(6) 「何回～したことがあるか」と経験の回数をたずねる疑問文 〈How often ～?〉または〈How many times ～?〉で表す。 <b>How many times have you been to</b> Korea? (あなたは何度韓国に行ったことがありますか。)</p> <p>— I <b>have been</b> there twice. (私は2度行ったことがあります。)</p> <p>— I <b>have never been</b> there. (私は1度も行ったことはありません。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経験を表す現在完了では、頻度・否定を表す副詞がよく使われる。 ・ often, ever, never は過去分詞の前につける。</li> <li>once, twiceなどの頻度を表す副詞, before, yetなどは文末につける。</li> </ul>
<p>② 完了・結果を表す現在完了</p> <p>☆「完了」は「～したところだ」 「結果」は「～してしまった(その結果, 今は…だ)」の意味。</p> <p>(1) 過去に始まった動作がたった今完了したことや, 完了した結果を表す。 I <b>have just cleaned</b> the room. (私はちょうど部屋をそうじしたところだ。)</p> <p>(2) just「ちょうど」, now「今」, already「すでに・もう」などといっしょに用いられる。 否定文・疑問文では yet が用いられる。 ⚡ yet の意味…疑問文で「もう」, 否定文で「まだ」</p> <p>(3) 否定文 〈have[has] not + 過去分詞〉の形で表す。 Emi <b>hasn't cooked</b> lunch <b>yet</b>. (絵美はまだ昼食を料理していません。)</p> <p>(4) 疑問文 〈Have[Has] + 主語 + 過去分詞～?〉の形で表す。 <b>Have they cleaned</b> the room <b>yet</b>? (彼らはもう部屋をそうじしましたか。)</p> <p>— Yes, they <b>have</b>. / No, they <b>haven't</b>. (はい, しました。/ いいえ, していません。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>already, just 完了を表す現在完了の文でよく用いられる。過去分詞の前におく。 I have just finished my work. (私はちょうど自分の仕事を終えたところです。)</li> <li>Mary has already had breakfast. (メアリーはもう朝食を食べてしまいました。)</li> <li>when, just now は現在完了の文では使えない。 ○ When did you finish it? (いつそれを終えましたか。)</li> <li>○ He came home just now. (彼はたった今帰宅しました。)</li> </ul>

## 【主な学習内容】

◎不定詞を含む慣用句・構文

◎動名詞を含む慣用句

学習内容	補足・留意事項など
<p>① 不定詞を含む言い方</p> <p>(1) 〈疑問詞+to 〉: 動詞の目的語になる。  how to ~ 「～のしかた, ～する方法」  what to ~ 「何を～したらよいか」  when to ~ 「いつ～したらよいか」  where to ~ 「どこへ[で] ～したらよいか」  which[what]+名詞+to ~ 「どの[どんな] …を～したらよいか」  <b>例</b> I don't know <u>how to swim</u>. (私は泳ぎ方を知りません。)  目的語</p> <p>(2) 〈ask[tell, want]+(人)+to 〉= 「…に～するように—」  ask ... to ~ 「…に～するように頼む」  tell ... to ~ 「…に～するように言う」  want ... to ~ 「…に～してもらいたい」  <b>例</b> The teacher <b>told</b> us <b>to</b> study math.  (先生は私たちに数学を勉強するように言いました。)</p> <p>(3) 〈It ... (for —) to 〉= 「～することは(—には) …だ」  It is easy <b>for</b> him <b>to</b> play tennis. (彼にとってテニスをするのは簡単です。)</p> <p>(4) 〈too ... to 〉= 「あまりに…すぎて～できない」  = 〈so ... that — can't 〉  The man is <b>too</b> old <b>to</b> work.  = The man is <b>so</b> old <b>that</b> he <b>can't</b> work.  (その男性はあまりに年をとりすぎて働けません。)</p> <p>(5) 〈... enough to 〉= 「～するには十分…」  = 〈so ... that — (can) 〉  He is rich <b>enough to</b> buy a new car.  = He is <b>so</b> rich <b>that</b> he <b>can</b> buy a new car.  (彼は新しい車を買えるほど十分金持ちです。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• tell[ask] ... to ~の書きかえ  She told me to study hard.  = She said to me, "Study hard."  (彼女は私に熱心に勉強するように言いました。)  He asked me to close the door.  = He said to me, "Please close the door."  (彼は私にドアを閉めるように頼みました。)</li> <li>• 「…に～しないように—」は、不定詞の直前に not をつける。  He told me not to open the door.  (彼は私にドアを開けないように言いました。)</li> <li>• It ... (for —) to ~.  It は to 以下を示す仮主語である。  for ~ は不定詞の指す動作をする人であり、意味上の主語と呼ばれる。</li> <li>• It ... (of —) to ~.  形容詞が kind, careful などの人物の性格や態度などを表すもの場合は、of — を用いる。</li> <li>• so ... that — can't ~  〈too ~ to ...〉構文は見た目は肯定文でも意味は否定を表しているため、that 節を否定で表す。</li> <li>• want to ~ と want ... to ~ の区別  I want to swim.  (私は泳ぎたい。)  I want you to swim.  (私はあなたに泳いでほしい。)</li> <li>• enough + 名詞 + to ~  「～するのに十分な…」の意味。  He has enough money to buy a new car.  (彼は新しい車を買うのに十分なお金を持っています。)</li> <li>• 動名詞 + 名詞  a swimming pool  = a pool for swimming  「水泳用のプール」</li> </ul>
<p>② 前置詞の目的語となる動名詞</p> <p>☆動名詞は前置詞の目的語になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• How about ~ing? 「～してはどうですか, ～しませんか」</li> <li>• after ~ing 「～したあとで」</li> <li>• before ~ing 「～する前に」</li> <li>• be good at ~ing 「～することがじょうず[得意]である」</li> <li>• be interested in ~ing 「～することに興味がある」</li> <li>• look forward to ~ing 「～するのを楽しみにする」</li> <li>• be fond of ~ing 「～するのが好きだ」</li> <li>• without ~ing 「～しないで」</li> </ul>	